

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671600165
法人名	有限会社 双葉
事業所名	グループホーム琴葉
所在地	徳島県阿波市市場町市場字岸ノ下201-1 (電話) 0883-36-8128

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 24 日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤:11人、非常勤:4人、常勤換算:1ユニット 5.6 2ユニット 5.93	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:6,000円、管理費:2,000円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 88 歳	最低	82 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿波病院、御所診療所、根東歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は県道から北に入った所にあり、近隣には総合病院や大型スーパー、養護老人ホーム、外食できる店などが点在している。周囲の環境は利用者の散歩コースにも最適であり、地域の人々と交流を図りながら自然も季節も味わうことができる。地域からは近隣住民の見守りや災害時の避難訓練の協力などが得られている。医療連携体制を整備し、重度化した場合や終末期のあり方に向けた体制づくりも充実し、利用者が安心して日々の生活が送れるよう家族等と相談しながら支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「評価の意義の理解と活用」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「職員を育てる取り組み」については改善されている。「鍵をかけないケアの実践」については改善に至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員は評価の意義を理解し、前回評価での課題の改善や自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、事業所関係者が参加している。会議では活動状況や評価結果等の報告、参加者からの意見交換などを行っている。議事録は全職員に回覧・押印し、情報の共有が図られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等は来訪時に聞いたり、担当職員や外部の苦情相談窓口にも言えることを伝えて把握している。出された要望等は全職員で検討し、家族の不安の解消や運営への反映に繋げている。また家族にも結果を報告し、記録に残している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小中学生の福祉職業体験学習を受け入れたり、災害時の通報ベル設置の提案を受けて対応するなどしている。地域住民に事業所の運動会などの行事への参加を呼びかけ、ボランティアとして計画から会場設営を共に行うなどしている。また近隣の方に避難訓練に参加してもらうなど、地域の一員としての連携や交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一人としてその人らしく暮らせる支援を目標とした事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はミーティングや申し送り、運営推進会議等で唱和し、再確認しながら共有し、ケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学生の福祉職業体験学習を受け入れたり、災害時の通報ベル設置の提案を受けて対応するなどしている。地域住民に事業所の運動会などの行事への参加を呼びかけ、ボランティアとして計画から会場設営を共に行うなどしている。また近隣の方に避難訓練に参加してもらうなど、地域の一員としての連携や交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解し、前回評価での課題の改善や自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、事業所関係者が参加している。会議では利用者や活動状況、評価結果等の報告、参加者からの意見交換などを行っている。議事録は全職員に回覧・押印し、情報の共有が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市町村担当者を訪ね、ホームの現状報告や相談、助言を求める等し、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の面会時や電話、手紙により、写真などを添え一人ひとりに合わせた報告がなされている。金銭出納簿には家族の確認印・サインがある。職員の異動等についてはホーム便りで報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は、担当職員や外部の苦情相談窓口にも言えることを伝え、来訪時にも聞いている。出された要望等は全職員で検討し、家族の不安の解消や運営への反映に繋げている。また家族にも結果を報告し、記録に残している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。異動等の場合は引き継ぎを十分に行うなど、利用者への影響を防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保と向上に向けて、研修計画を立て、積極的に参加している。報告書は回覧して確認印・サインし、全職員が内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳島県老人福祉施設協議会に加入し、研修参加時にホーム便りや意見を交換するなど、同業者との交流に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学や体験入居をしてもらったり、利用者・家族と話し合いを重ねて不安の解消を図り、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から野菜の植え付け時期、漬物や切り干し大根の作り方、昔ながらの行事や風習などを教えてもらうなど、共に学び支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向は会話や表情から把握している。コミュニケーションが困難な利用者には筆談したり、家族と相談したりして本人の視点に立った意向の把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意見、要望、関係者の気づきなどを反映し、地域社会の一員として有意義で充実した生活を送れるよう支援する内容となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直し、利用者の状態変化や家族の意向に応じて必要な関係者間で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。計画書には本人・家族の確認印・サインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域のニーズに対応して短期利用型共同生活介護に取り組んだり、医療連携体制を整備するなど事業所の多機能性を活かした柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医やホーム協力医等と連携し、職員が受診に付き添ったり、訪問診療に来てもらうなど適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後すぐに利用者や家族、関係者間で話し合い、重度化した場合や終末期のあり方を明確にしている。またその後も繰り返し話し合っって全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保、秘密保持については契約書や重要事項説明書に明示されている。また全職員と個人情報保護に関する誓約書を交わし、取り扱いを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を満たすことを最優先し、起床や就寝時間、外出や行事への参加などは一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人ひとりの力を活かして買い物やお茶入れ、テーブル拭き、下膳などを一緒に行っている。また旬の食材を取り入れたり、ミキサー食や刻み食など食べやすい工夫をするなど、食事を楽しめる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者や家族から一人ひとりの習慣や好みを聞いて相談しながら支援している。職員は利用者の不安や羞恥心へも配慮した支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の計画は利用者と一緒につくっている。職員は利用者一人ひとりの力をふまえて、役割を分担したり、楽しみごとや気晴らしになり得るかを検討し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの希望を重視し、日々の散歩や買い物、外食、温泉、お寺参りなどの外出を支援している。また家族にも参加してもらって記念写真を撮るなどしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族と相談し、利用者が外出しそうな気配をつかみ鍵をかけないケアに取り組んでいるが、日中、玄関を施錠していることが多い。	○	家族や関係者と話し合いを重ね、鍵をかけずに安全に過ごせるケアを実践されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は利用者や家族、消防署員、地域住民の協力のもと、年に2回実施している。マニュアルや訓練の記録も整備している。また近隣住民の提案により、屋上に災害時用のベルを設置し、地域の協力が得られる体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの1日の栄養・水分摂取量を記録に残して把握し、栄養士である運営者の管理・指導を得ている。またかかりつけ医と連携し、所見や指導を得るなど支援体制が整っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の周囲や玄関には木や草花がたくさん植えられ、共用空間からも見渡すことができる。また畳やコタツ、ソファが置かれ、思い思いに過ごすことができる。各ユニットの壁飾りの色は鮮やかで、窓からの採光も良く季節感のある居心地よい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使っていたテーブルや椅子、冷蔵庫などが持ち込まれ、個性的で本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。		